

B

2025 NOVEMBER

〔第2050回〕

ドイツ・ロマン派の夢見る文学青年

ローベルト・シューマン

Robert Schumann (1810-1856)

シューマンは文学青年でした。父親が出版業を営んでいたこともあり、ゲーテやシラーなど文学に親しむようになります。また、作曲活動のみならず音楽雑誌も創刊し、音楽評論に健筆を振るいました。今回の《マンフレッド》の原作者バイロンも、シューマンが愛読した文学者のひとりです。原作の劇詩は、悩める放浪の主人公マンフレッドがアルプスの山中を舞台に、忘却や死について魔女や精霊と問答するという内容で、《「マンフレッド」序曲》からは、マンフレッドの抱える葛藤が伝わってきます。文学と音楽が出会うことで生まれたシューマンの名作です。



アルプスの雄大な山々を眺める若きシューマンと、
山中を彷徨うマンフレッド

©IKE